



廃炉に向けて歩んできた
これまでの取組と
この先の未来へつなぐ
研究成果についてお伝えします。

2025

震災から15年 廃炉の歩みとその先へ

PROGRAM

◆ 基調報告 ◆ 招待講演 ◆ 各センター概況報告

1 森林域活用のための放射線モニタリング



佐々木 美雪

廃炉環境国際共同研究センター

2 デジタルツインで廃炉作業を効率化する！



秋山 陽一

楡葉遠隔技術開発センター

3 福島第一廃炉に向けた放射性固体廃棄物分析のこれから



小高 典康

大熊分析・研究センター

情報発信スペース

ANALYSIS LAB.



ANALYSIS LAB. (アナリシスラボ) は「分析」をテーマにした情報発信スペースとなります。報告会当日には大熊分析・研究センターにおける研究内容紹介(ポスター展示)を予定しております。

ポスター展示

令和8年2月6日(金)

日時

13時30分～16時30分

ハイブリッド開催(会場とオンライン)

CREVA おおくま (大熊町産業交流施設)

会場



福島県双葉郡大熊町大字下野上字大野116-5

ご登録は
こちら

会場とオンラインの
ハイブリッド開催



https://fukushima.jaea.go.jp/info/R7_fukushima-hokokukai.html

後援

福島県、楡葉町、富岡町、大熊町、大熊町商工会、福島大学、福島工業高等専門学校、原子力損害賠償・廃炉等支援機構、国際廃炉研究開発機構、国立環境研究所、福島国際研究教育機構



国立研究開発法人
日本原子力研究開発機構
Japan Atomic Energy Agency



●お問い合わせ

福島廃炉安全工学研究所

運営管理部 総務課

TEL.0246-35-7650 FAX.0246-24-4031



ウェブサイトには研究開発や活動状況などの最新の情報を掲載しております。ぜひご覧ください。

<https://fukushima.jaea.go.jp/>

福島廃炉安全工学研究所について

福島廃炉安全工学研究所は、福島県をはじめ国内外の皆様の安全・安心に貢献すべく研究開発を進めています。

1 F 廃止措置に関する研究開発

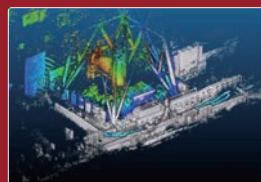
研究開発成果を廃止措置の現場に実装し、作業の安全性向上と計画の着実な遂行に寄与しています。



1 F 廃止措置に関する研究開発



1 F デジタルツイン
デブリアイ (debrisEye)



統合型放射線イメージングシステム
(IRIS) で作成した 3 次元マップ



空からの環境放射線モニタリング



VR デジタル空間を使った作業訓練

福島的环境回復に関する研究開発

環境中の放射線量の状況を把握し、特定帰還居住区域解除等へ貢献しています。

研究開発基盤の整備・運用

研究開発推進のための先端施設の運用・整備を実施しています。

研究開発拠点は福島県内に 4 箇所。茨城地区にある JAEA の施設とも連携を図りながら、様々な研究開発を展開しています。

廃炉環境国際共同研究センター (CLADS)

富岡町

国際共同研究棟



- 国内外の英知を結集した廃止措置等の研究開発
- 放射性廃棄物や燃料デブリの分析と研究



燃料デブリ分析に向けた取組

福島第一原子力発電所から取り出された燃料デブリ分析などの取組について紹介します。



<https://fukushima.jaea.go.jp/debris/>

南相馬市

福島県環境創造センター
環境放射線センター



- 環境モニタリングとマッピング技術開発等(環境回復)



大熊分析・研究センター

大熊町

放射性物質分析・研究施設第 1 棟



- ALPS 処理水の第三者分析



ALPS 処理水の第三者分析

客観性や透明性確保の観点から、東京電力HDとは独立した第三者機関として実施した分析の方法と結果を紹介します。



<https://fukushima.jaea.go.jp/okuma/alps/index.html>

櫛葉遠隔技術開発センター (NARREC)

櫛葉町



- ロボット等の遠隔操作機器開発
- 大型モックアップ施設の供用

